

道路の下には遺跡がいっぱい!!

(高松市春日町、川南西遺跡、川南東遺跡編)

近年、全国各地で教科書を書き換えるような発見があいついでいますが、その多くは工事の前に発見されたものです。特に道路を整備するとき広い範囲にわたって工事を行うため、多くの遺跡が発見されます。道路の下には発掘調査された遺跡が今もいっぱい眠っているのです。

ところで、「どうして遺跡があることがわかるのですか?」「古い地図や記録でものこっているのですか?」よくこんな質問を受けますが、決して初めから遺跡の場所がわかっているわけではありません。遺跡があるかないかを調べる試し掘りをして、はじめて遺跡のある場所がわかります。今回紹介する川南西・川南東両遺跡とも都市計画道路室町新田線整備に先立つ試掘調査によって発見された遺跡で、今までは全く知られていませんでした。



川南西・川南東遺跡位置図

「国土地理院発行の2万5千分1地形図(高松南部)の一部を掲載」

川南西・川南東遺跡は市内東部を流れる2本の河川、春日川と新川の間で春日神社の南側に位置します。平成8年3月下旬から7月上旬にかけて発掘調査を行いました。現在整理作業を順次行っているところです。遺跡は全体に砂地で、中世前半までは海中、あるいは砂浜で住むのに適した土地でなかったと思われます。やや土地条件が安定した中世後半(室町時代)頃になって人が住みはじめたと思われます。中心となる時期は川南西遺跡が室町時代から江戸時代のはじめ、川南東遺跡が江戸時代から明治時代です。

確認された主なものとして次のようなものがあります。

川南西遺跡…(遺構)柱穴、溝、井戸、

(遺物)備前焼、肥前系陶磁器、土師皿、

川南東遺跡…(遺構)柱穴、溝、埋甕

(遺物)肥前系陶磁器、瀬戸美濃系陶磁器、火鉢、瓦

大解剖!! 川南西遺跡

川南西遺跡では室町時代から江戸時代の遺構、遺物を確認しました。遺跡は東西を川で挟まれた東西200mの範囲に位置しています。遺跡の西端では噴砂の跡を、遺跡の東側は生産地域であったと想定され、耕作の跡と考えられる鋤跡や水路跡などを確認しています。中心部分では溝に囲まれた屋敷跡と考えられる多数の柱跡や井戸、区画溝などを確認しています。区画溝や柱跡は切り合いの関係が認められることから、数回の作り替えが考えられます。

※切り合い=新しい遺構（柱穴など）が古い遺構を一部壊してしまうこと。
遺構の新旧



写真3 東西の溝の北側にも多数の柱跡が見つっています。



写真4 屋敷跡の東側では鋤跡の確認から水田として利用されていたようです。



写真1 屋敷跡の西側で確認した火葬墓です。多量の炭と一緒に人骨が見つかりました。



写真2 屋敷跡に接する大小3条の溝です。溝からは当時使われていた陶磁器が多数出土しました。



写真5 溝で区画された屋敷跡の内側には多数の柱跡を確認しました。



写真6 屋敷跡で確認した直径3.5mの大きな素掘りの井戸です。屋敷で使われていたものでしょう。

川南西遺跡では前ページで紹介したもの以外に下記のものが出土しています。



写真7、8 溝で区画された屋敷跡の北側と北東の2ヶ所で土器が並べられたり、まとまって出土しています。香川県内で確認された同様な遺構から屋敷を造成したり新たに家を新築した際に行われる地鎮祭の跡であると考えられます。



写真9 多数確認された柱穴の一部からは柱の基部が残った状態で出土しました。



写真10 溝や柱穴、土坑からは当時使われていた皿、椀、播鉢等が多数出土しています。



写真11 屋敷跡の西側で確認した溝からは刀の鐔が出土しました。当時この屋敷に住んでいた人物の所有であったかもしれません。



写真12 屋敷の西側の溝から出土した鯉の形をした染付の水滴です。背びれと口の部分に穴が空いています。

※水滴＝親に水を入れる容器

トピックス

地震考古学

川南西・川南東遺跡ともむかしの地震跡を検出しています。地下水が地面を引き裂き砂と一緒に噴き出した跡で、噴砂という現象です。市内ではこのような地震の痕跡が数多く検出されています。

遺跡で地震跡を見つけると、地震が起こった時代がわかることから、その積み重ねによって地震の発生の周期を知ることができます。こういった学問を地震考古学と呼びます。今後の地震発生の予知にも役立つことから注目されている分野です。



地震跡検出遺跡位置図

「国土地理院発行の5万分1地形図(高松南部)の一部を掲載」



写真1 川南西遺跡の噴砂



写真2 川南東遺跡の噴砂



写真3 松林遺跡の噴礫

地震跡検出遺跡一覧表 (高松市内)

	遺跡名	所在地	種類	時代	備考
1	川南西遺跡	高松市春日町	噴砂	江戸時代	当時の海岸線付近
2	川南東遺跡	高松市春日町	噴砂	室町～江戸時代	当時の海岸線付近
3	六条・上所遺跡	高松市六条町	噴砂	江戸時代以前	
4	弘福寺領讃岐国山田郡田園関係遺跡	高松市林町	噴砂	弥生時代	
5	空港跡地遺跡	高松市林町	噴砂	江戸時代	
6	凹原遺跡	高松市多肥下町	噴砂	古墳～室町時代	
7	松林遺跡	高松市多肥上町	噴礫	弥生時代中期中葉	弥生土器で蓋をしている
8	西ハゼ土居遺跡	高松市西ハゼ町	噴砂	弥生時代	
9	筑城城跡	高松市鶴市町	噴砂	江戸後期以前	

※噴砂・噴礫＝大地震の際に、地面がひび割れ、地下水と同時に砂や小石が噴き出す現象で砂の場合を噴砂、小石の場合を噴礫と呼びます。

大解剖!!

川南東遺跡

川南東遺跡では江戸時代から明治時代の遺構、遺物を確認しました。遺跡の西端には川が流れており、東岸には川に沿うような形で畑が作られており、さらにその東側には集落が営まれていたことがわかりました。畑と集落は溝で区画されていました。遺跡の東端では江戸時代中頃の屋敷跡を検出しました。遺構の中には数多くの遺物が見られ、当時の農村の生活様式を知るうえで重要です。



写真3 直径50cmの穴で、底には石が敷き詰められていました。 写真4 東側と南側を溝で囲った江戸時代中頃の屋敷跡です。

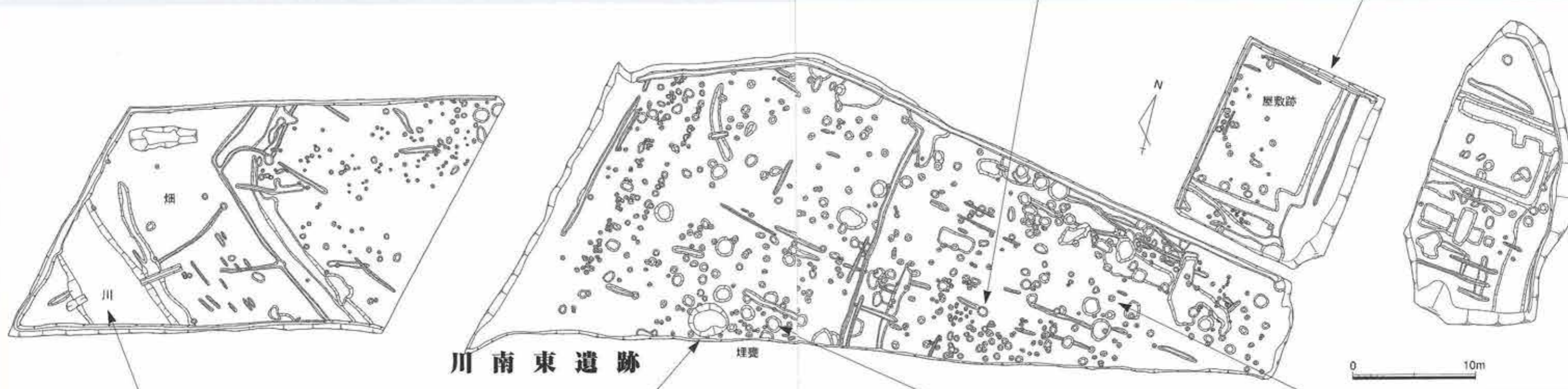


写真1 江戸時代の川の層で検出した地震砂(噴砂)



写真2 明治時代のゴミ穴で当時の日用雑器が多数出土しました。



写真5 穴の中に壺を入れて埋めています。6ヶ所で見られました。



写真6 柱穴の中には柱が腐らず残っているものがありました。

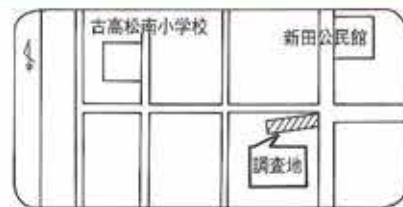
発掘調査現場速報

新田・本村遺跡—高松市新田町—

新田・本村遺跡の調査は、都市計画道路室町新田線の建設に伴うもので、前述している川南西遺跡・川南東遺跡とは新川を挟んだ東側に位置します。

発掘調査は1996年12月～1997年4月と1997年10月～12月の2回に分けて行いました。その結果、弥生時代の終わり頃と古代の初め頃、さらに中世初め頃の3時期に分けられる遺構や遺物が多数見つかりました。その中で中心になるのは、13～14世紀頃（中世初め）です。主な遺構としては、15棟前後の掘立柱建物と溝が挙げられます。

出土した遺物は、土器と瓦、動物の骨などです。特に写真の大規模な溝からは多数の土師器、須恵器と共に中国から輸入された磁器や瓦・網のおもり、イイダコ壺・製塩土器などが出土しました。発掘調査の詳細は次号で説明します。



新田・本村遺跡位置図



遺構（溝跡）



発掘作業風景



遺構（掘立柱建物群）

編集後記

市内春日町で発掘調査を実施した川南西遺跡、川南東遺跡を中心に紹介しました。いかがだったでしょうか。今後も紙面を充実させていきますので、ご意見ご感想をお願いします。

むかしの高松 第9号

1998.3.31

編集／高松市教育委員会文化部文化振興課
高松市香町一丁目8番15号
☎839-2636
発行／高松市教育委員会文化部文化振興課
印刷／株式会社中央印刷所